


王子駅周辺まちづくりグランドデザイン

平成29年7月

概要版

 東京都北区



第1章 背景と目的

グランドデザイン策定の背景

王子駅は、JR 京浜東北線に沿った武蔵野台地の崖線と石神井川が交差する、地形的に特徴のある場所に立地しています。周辺には歴史ある飛鳥山公園、音無親水公園（音無川）、王子神社など、緑豊かな自然環境や文化的資源があり、石神井川の水利や都心からの近接性を背景に、明治期には製紙業をはじめとした先進的な産業が育まれ、日本の近代化をけん引してきました。現在、JR や地下鉄、都電、バス、首都高速道路などが集まる交通の要衝となっています。

一方、JR や幹線道路、石神井川などが駅周辺の歩行者の回遊性を阻害する要因となっていることや、木造住宅密集地域における防災上の課題などが指摘されています。区では、駅周辺にある印刷局王子工場用地の一部を取得して、新庁舎を整備する方針としています。この機会を捉え、王子駅周辺の現状や将来のあり方を、広域的な観点を含め改めて俯瞰しながら地域の課題を把握し、その解決策や個性的な魅力づくりの方向性を明らかにすることによって、目標とするまちづくりを実現していく必要があります。

グランドデザイン策定の目的

地域の課題を解決し、まちの価値を高めていくためには、区民・地権者・民間事業者・行政など、まちづくりに関わる多様な主体が緊密に連携して、継続的にまちづくりに取り組んでいくことが重要です。そのためには、まちづくりを進めていくためのまちの将来像を関係者間で共有し、共通の目標・認識を持つ必要があります。

本グランドデザインは、王子駅周辺のまちづくりについて、まちの将来像の実現のための基本方針、展開施策などを示し、広く王子の存在感と発信力を高めていくものです。



飛鳥山花見 勝川春潮画
(北区飛鳥山博物館)



武陽王子飛鳥山真景（1888年発行）
(国立印刷局 お札と切手の博物館)

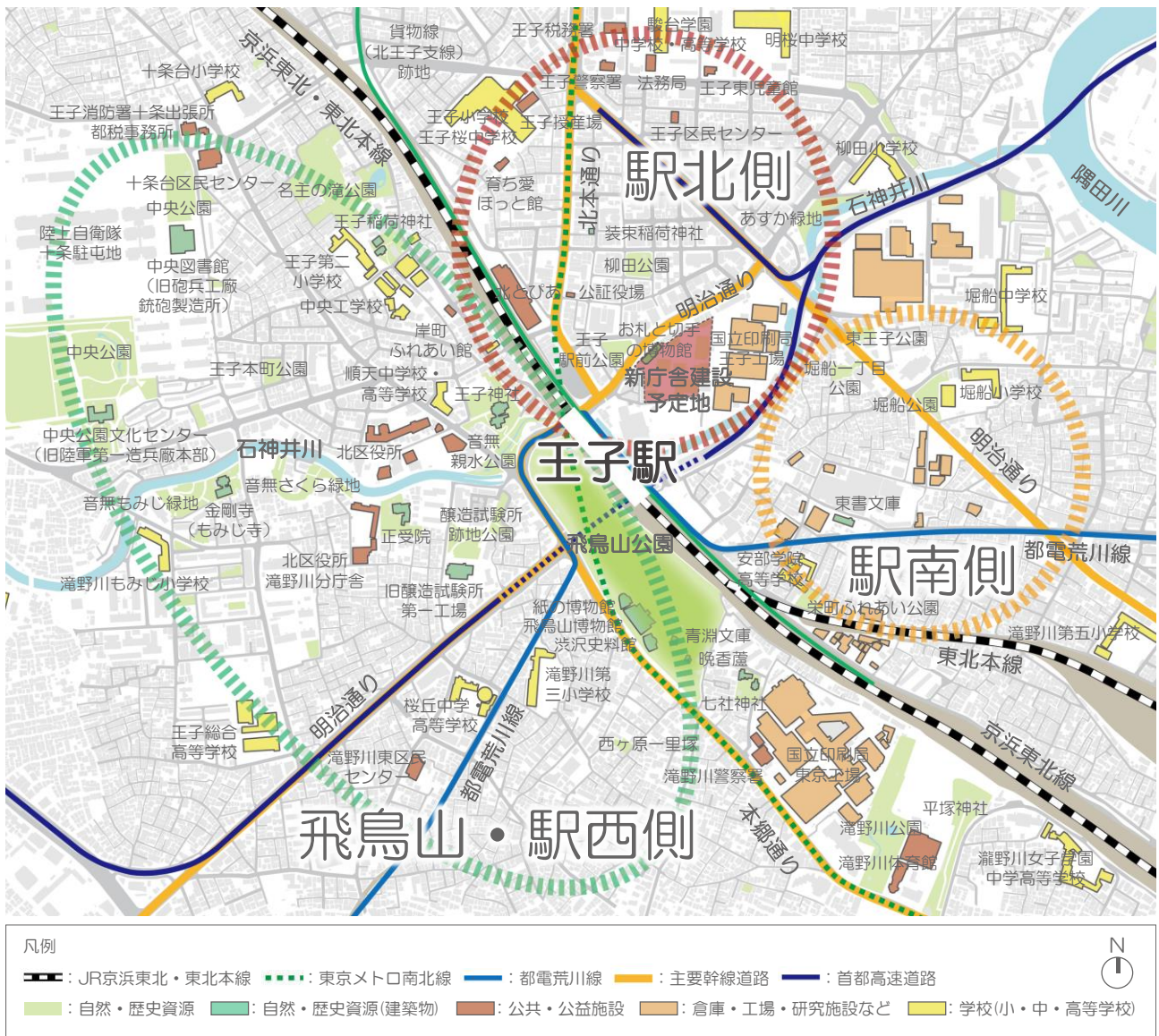
第2章 現況と特徴

王子駅周辺の現況

王子駅周辺を石神井川や崖線、鉄道境界として、土地利用の特徴的なまとまりから分類すると、駅を中心として下図に示す3つのゾーンに区分されます。

- 駅北側：行政機関や公共施設を含め、業務機能の集積するにぎわいの場
- 飛鳥山・駅西側：住宅を中心とした市街地に歴史的建築物や公園など多くの自然・文化・歴史資源が分布する地域
- 駅南側：住宅のほか、工場等の施設が点在する木造住宅密集地域

また、これら3つのゾーンを踏まえると、王子駅周辺全体としての特徴は、「東京の北の拠点」「交流の場」「自然・文化・歴史資源が豊かなまち」の3点に整理できます。これらの特徴を主軸として、地域全体の将来像を明らかにしていきます。



王子駅周辺の現況と3つのゾーン

王子の特徴

王子の3つの特徴ごとに、強めていくべき優位性と、その背後にある解決していくべき課題を分析することにより、王子の特徴を活かしたまちづくりの方向性を明らかにしていきます。

＜特徴1＞東京の北の拠点

王子駅周辺は、生活者の拠点として高い交通結節性を有する一方で、交通量の規模に応じた駅前空間が不足していることや、駅利用者当たりの商業売上の低さに見られるように、拠点性に相応しいにぎわい形成が不十分であることなどの課題があります。このため、多方面から多くの人を訪れる優位性を活かし、交通拠点としての収容能力を増強しながら、建物の機能更新を図るとともに、多様な都市機能の集積を高めていくことにより、拠点性を強化していくことが必要です。

＜特徴2＞交流の場

江戸期より、にぎわいや交流の場として発展してきた歴史を背景として、現在でも居住者や就業者・観光客など、多様な目的をもった人々が集まるまちです。一方で、鉄道や河川など人の円滑な移動を阻害する分断要素が存在するため、まち全体のにぎわいの形成に十分な効果が発揮できないという課題があります。このため、交通利便性が高いという特徴を活かし、駅前を中心とした歩行者環境を再構築することによって、まち全体の回遊性を高め、交流の場としての機能や魅力を充実していく必要があります。

＜特徴3＞自然・文化・歴史資源が豊かなまち

多様な自然・文化・歴史資源がある一方で、防災面、景観面で多くの課題を有し、資源を活かしきれていない状況です。このため、必要な基盤整備や防災対策などを講じながら、長い年月をかけて培ってきた文化・歴史資源の継承を拠り所とし、豊かな水と緑など、特徴ある魅力を生かした空間づくりを進めていくことが求められています。

第3章 まちの将来像と基本方針

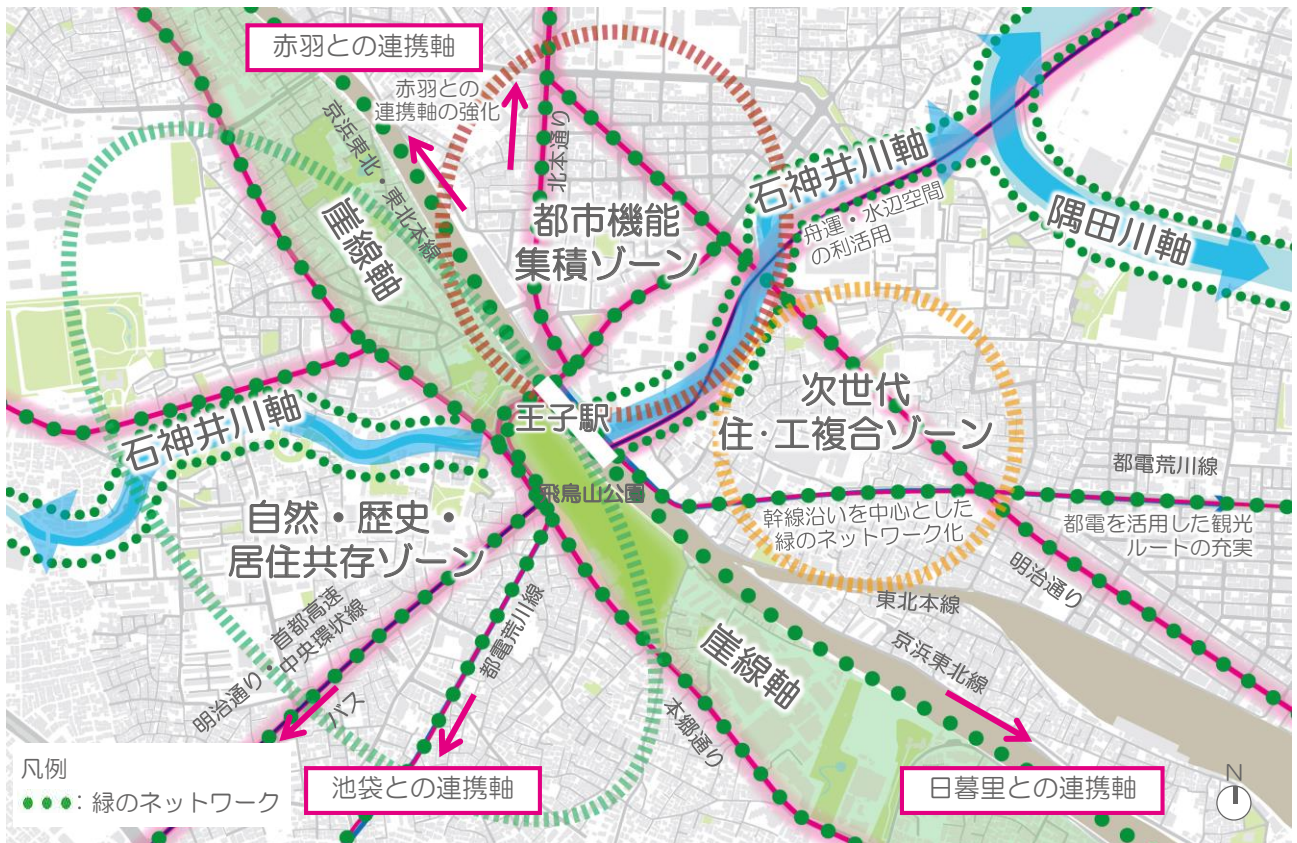
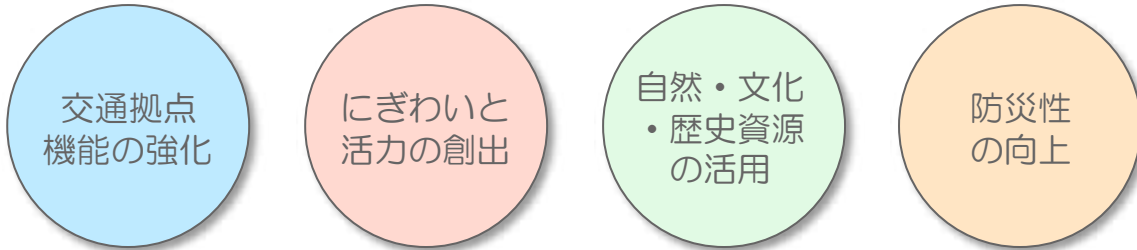
まちの将来像

東京の北の交流拠点 水と緑豊かな王子

目標とするまち

- 国内外から人が集まるまち
- 新しい働き方と豊かなライフスタイルが実現できるまち
- 飛鳥山と石神井川のある水と緑のまち
- みんなで守り・創るまち

まちづくりの基本方針



まちの骨格形成の考え方

交通拠点機能の強化

- ①だれもが快適・安全に乗換えができる
駅前整備
- ②地区内の歩行者等の回遊性の向上
- ③駅前広場の再編や周辺街区の機能更新
にあわせた駅の利便性の向上

にぎわいと活力の創出

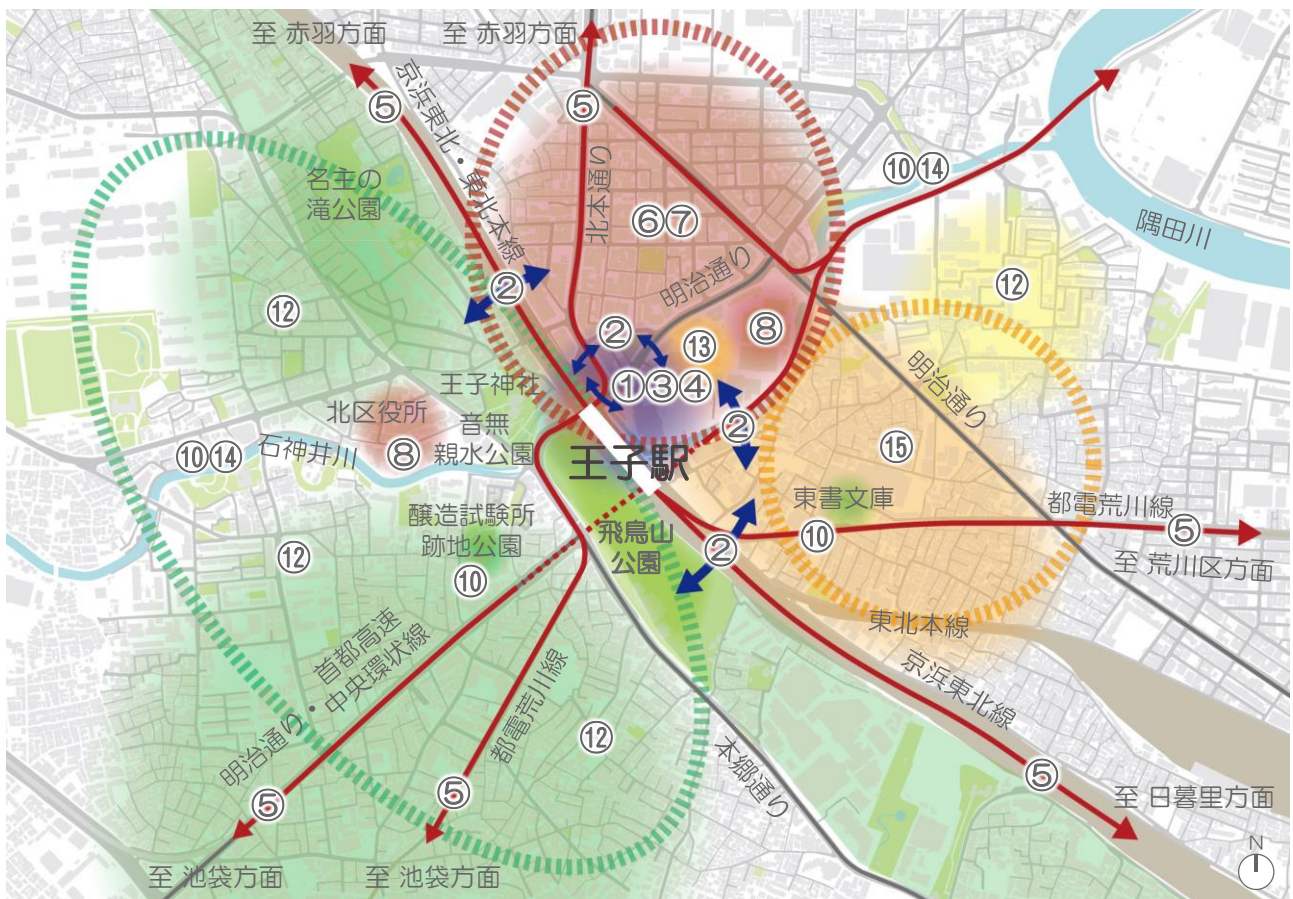
- ④駅前の顔づくり
- ⑤東京の北の拠点としての地域連携
- ⑥滞留・交流・情報発信ができる公共的
空間の整備・活用
- ⑦都市機能集積の誘導によるにぎわいの
創出
- ⑧地域資源を活用したまちづくりの推進

自然・文化・歴史資源の活用

- ⑨緑化の推進・ネットワーク化などの推進
- ⑩河川や公園、産業遺産等を活用したまち
づくりの推進
- ⑪エリアマネジメント等によるシティプロ
モーションやブランド力の強化
- ⑫地域特性を活かした住環境の形成

防災性の向上

- ⑬庁舎整備とあわせた防災拠点機能の構築
- ⑭河川の活用による災害対応力の強化
- ⑮木造住宅密集地域における防災性及び災
害対応力の強化
- ⑯水害対策の強化

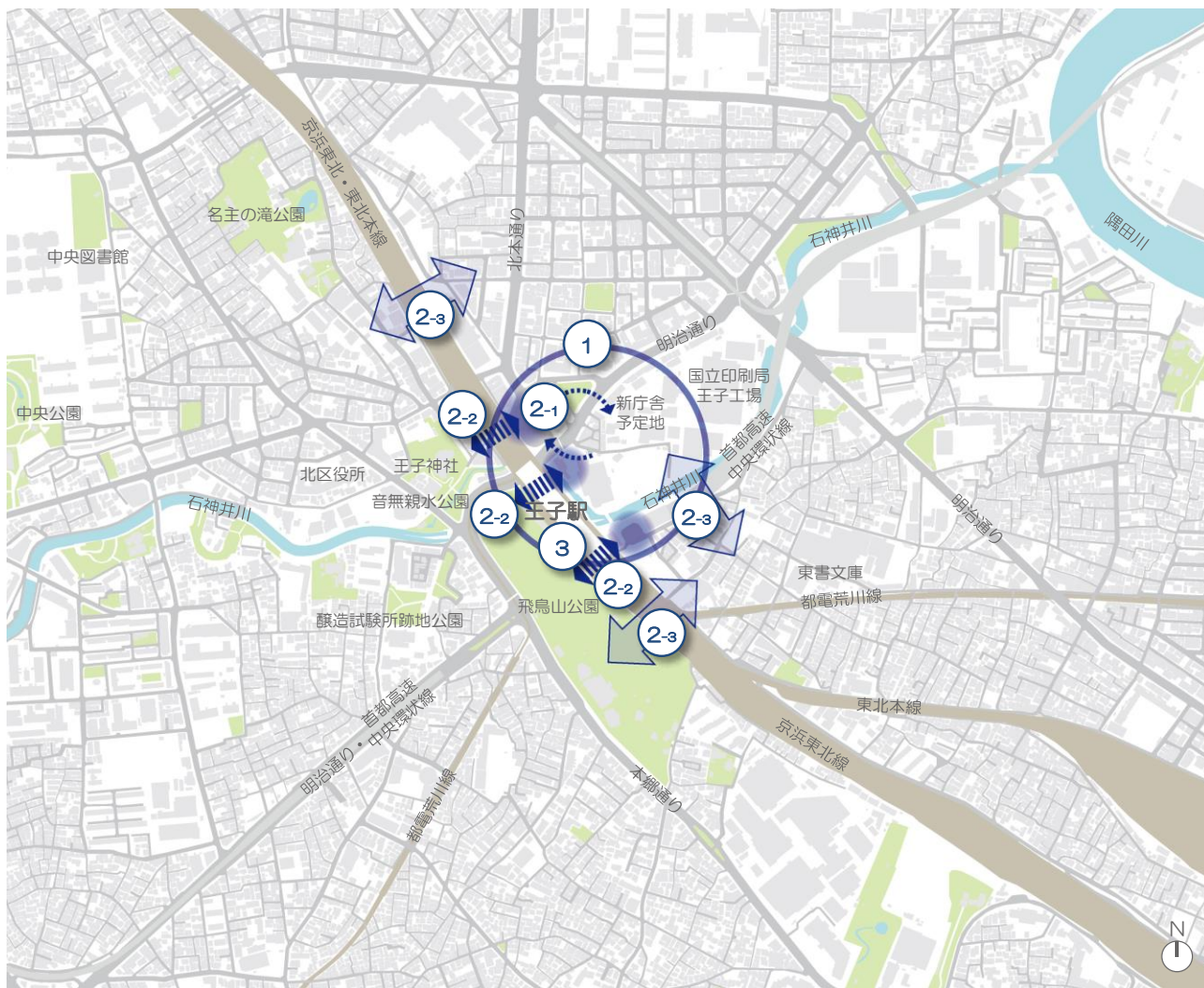


まちづくりの方向性

4 展開施策案

(1) 交通拠点機能の強化

「国内外から人が集まるまち」の実現に向けて、王子のまちの優位性のひとつである交通結節機能を強化し、活力あるまちを実現します。このため、車や人などの交通流動を適切に処理し、駅施設や駅前広場、それらの間を繋ぐ動線となる空間などの整備により、乗換え利便性と歩行者空間の充実による快適性・安全性の向上を図ります。



※エリア等については、場所を特定しているものではありません。

だれもが快適・安全に乗換えができる駅前の整備

- 1-1 乗換距離の短縮や乗換の分かりやすさに配慮したバス、タクシー等の乗場の機能再編、集約
- 1-2 デッキ・地上レベル等による歩車分離、乗換え利便性、まちへのアクセス性の向上
- 1-3 高速バスの発着地としての機能の強化
- 1-4 利便性の高い駐輪場の整備
- 1-5 都内に唯一現存する都電の利便性の向上
- 1-6 歩行者空間の拡充等による快適性・安全性の向上
- 1-7 周辺街区の機能更新とあわせた駅前広場の整備

【参考事例】駅前広場の整備



武蔵小金井駅南口駅前広場（小金井市）



八王子駅南口駅前広場（八王子市）



姫路駅北口駅前広場（姫路市）

地区内の歩行者等の回遊性の向上

- 2-1 バリアフリー動線整備などによる立体的な歩行者ネットワークの強化
- 2-2 駅前広場等の周辺整備にあわせた駅の東西を結ぶ通路機能の拡充
- 2-3 ゾーン間のネットワーク強化
- 2-4 安全で快適な自転車通行空間の整備 ※整備内容や範囲等は今後具体的に検討していくため、図示は無し

【参考事例】
歩行者回遊性の向上



姫路駅北口周辺（姫路市）



武蔵境駅西側高架下（武蔵野市）

【参考事例】
自転車通行環境



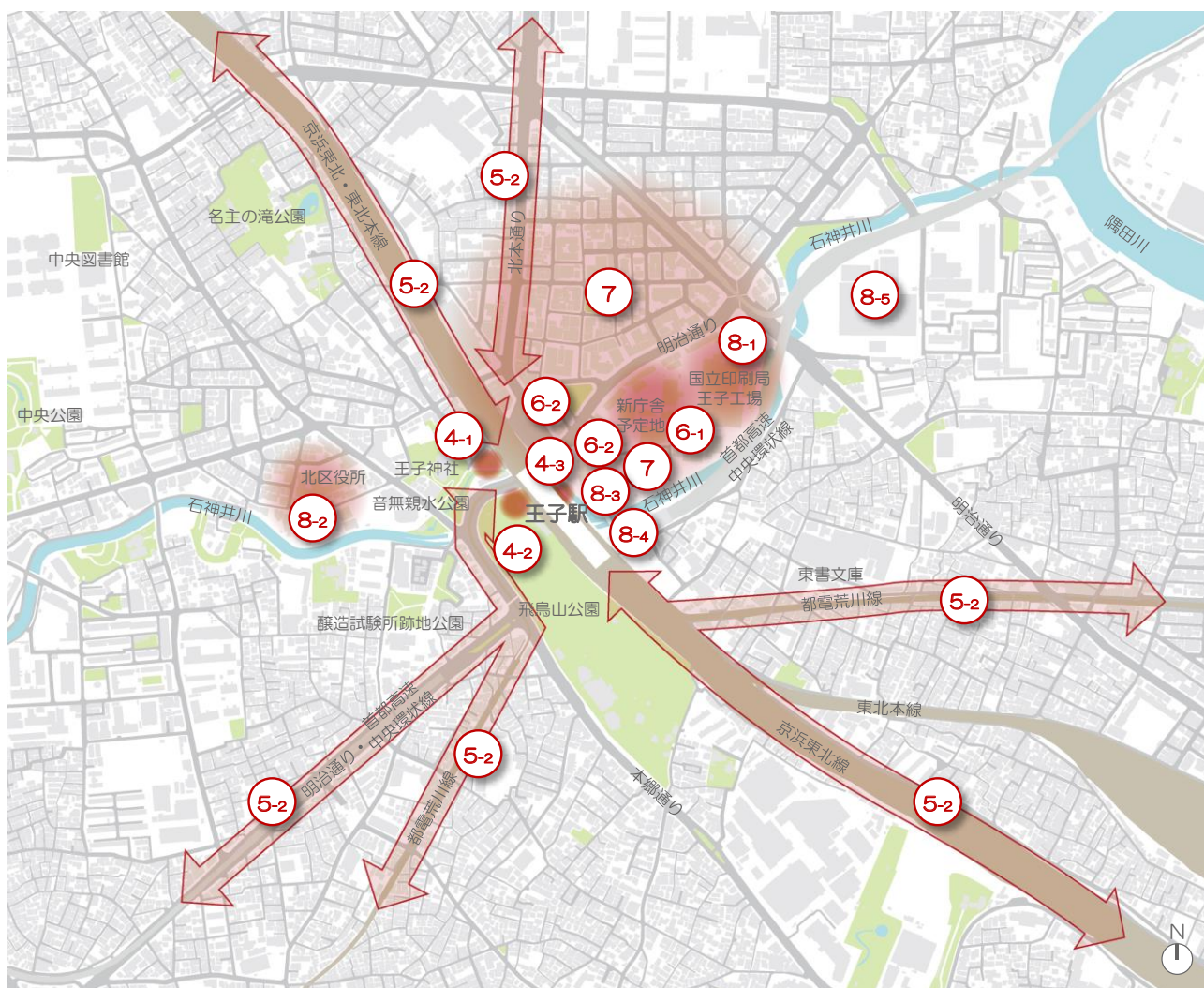
自転車専用レーン（練馬区）

駅前広場の再編や周辺街区の機能更新にあわせた駅の利便性の向上

- 3 駅の利便性の向上

(2) にぎわいと活力の創出

「国内外から人が集まるまち」「新しい働き方と豊かなライフスタイルが実現できるまち」の実現に向けて、王子ならではの地域資源などの優位性を活かしたまちづくりを積極的に展開します。また、多様な都市機能の集積を図ることにより、魅力ある市街地を形成し、まちの原動力となるにぎわいと活力を創出します。



※エリア等については、場所を特定しているものではありません。

駅前の顔づくり

4-1 王子ならではの資源を活かした個性的な顔づくり

4-2 飛鳥山の玄関口としての都市計画公園整備

4-3 都電や石神井川など王子の資源を生かした特徴的な空間整備

【参考事例】路面電車停車場と一体的な空間整備



富山ライトレール（富山市）

東京の北の拠点としての地域連携

5-1 王子らしさを活かした特徴ある拠点の形成

※地域全体に関わるものであるため、図示は無し

5-2 赤羽・池袋・日暮里など他の拠点との連携強化

滞留・交流・情報発信ができる公共的空間の整備・活用

6-1 交流促進・にぎわい創出の視点を踏まえた新庁舎整備

6-2 周辺街区の機能更新や区有地活用等による、交通広場と一体的な整備
省エネルギー化や再生可能エネルギー等活用の推進

※地域全体に関わるものであるため、図示は無し

6-3 にぎわい創出のためのエリアマネジメント等の導入

※地域全体に関わるものであるため、図示は無し

都市機能集積の誘導によるにぎわいの創出

7-1 商業・業務・教育を中心とした都市機能集積の誘導
にぎわい創出のための高度利用の推進

7-2 起業を誘発する環境整備

7-3 宿泊施設の立地誘導

7-4 イベント広場や地域活動の支援施設等の整備の誘導

7-5 回遊性の向上・特徴ある散策路整備

【参考事例】都市機能の集積



柏の葉キャンパス駅周辺
（柏市）

【参考事例】イベント広場



中野セントラルパーク
（中野区）

地域資源を活用したまちづくりの推進

8-1 北区と印刷局の共存共栄をもとにしたにぎわいの創出

8-2 区庁舎跡地利用

8-3 水辺空間を活かしたにぎわいの創出

8-4 石神井川を利用した舟運のネットワークの形成

8-5 倉庫など物流機能集積を活かしたまちづくりの推進

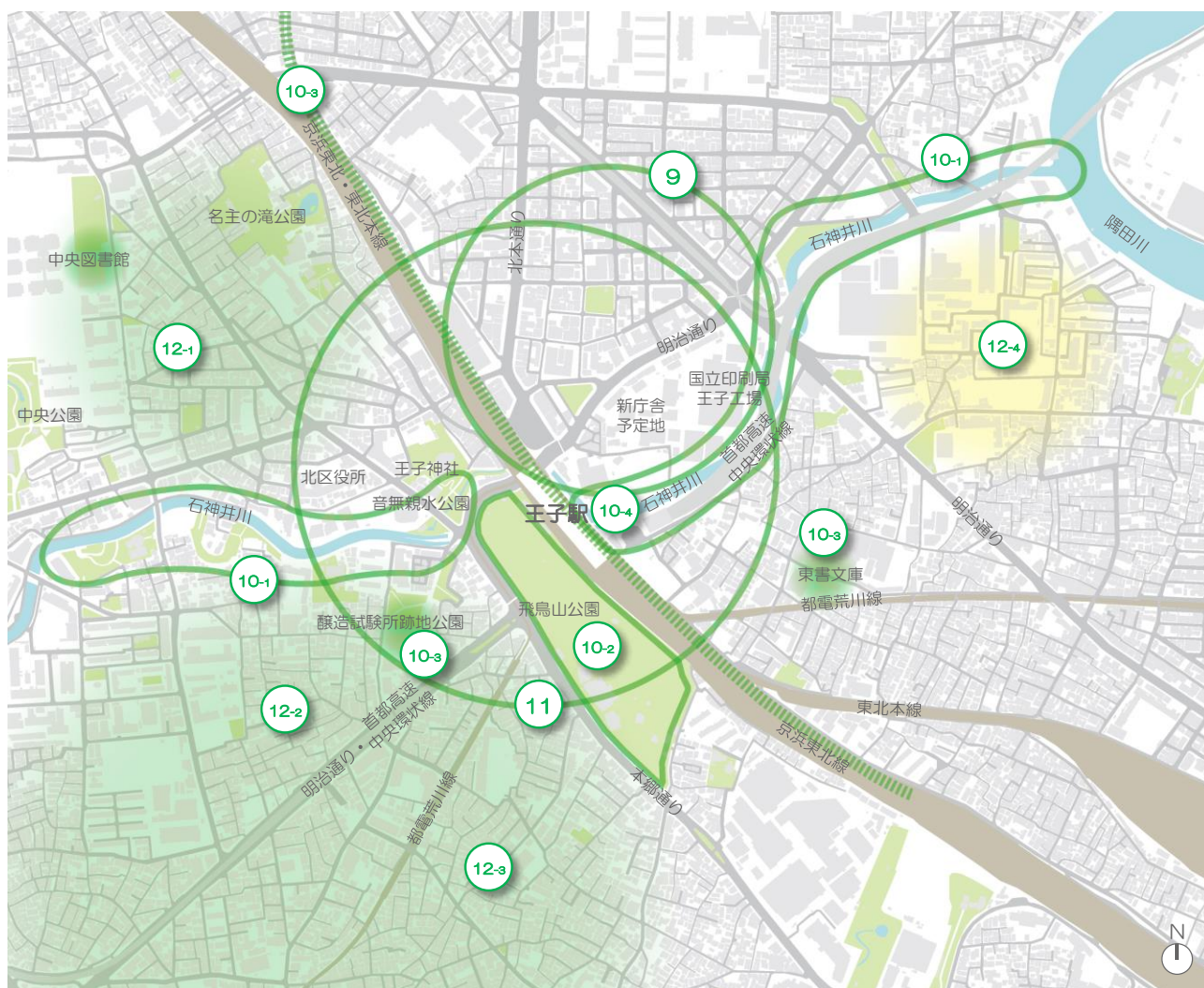
【参考事例】
運河を利用したにぎわいの創出



天王洲アイランド
（品川区）

(3) 自然・文化・歴史資源の活用

「飛鳥山と石神井川のある水と緑のまち」「みんなで守り・創るまち」の実現に向けて、王子のまちの発展の礎となった自然・文化・歴史資源を積極的に活用し、環境負荷の少ない王子ならではの特徴をもった、新たなまちづくりを進めます。



※エリア等については、場所を特定しているものではありません。

緑化の推進・ネットワーク化などの推進

9

開発の機会をとらえた緑化の推進及びネットワーク化等による環境負荷の少ないまちなみの形成

【参考事例】 開発による都市緑化の推進



新宿三井ビルのサンクンガーデン



パークシティ大崎周辺の並木



豊島区庁舎屋上庭園での環境学習

河川や公園、産業遺産等を活用したまちづくりの推進

10-1

石神井川の水辺利用

10-2

飛鳥山公園（樹林地エリアなど）の再整備

10-3

旧醸造試験所第一工場や東書文庫、貨物線廃線跡地などの産業遺産の活用

10-4

石神井川の臭気対策

10-5

自然・文化・歴史資源をつなぐテーマ性のある散策路の整備
※整備範囲等は今後具体的に検討していくため、図示は無し



旧醸造試験所第一工場



東書文庫

【参考事例】 水辺利用



創成川の親水空間（札幌市）



運河を利用したにぎわいの創出(天王洲アイランド)



水上タクシー

エリアマネジメント等によるシティプロモーションやブランド力の強化

11

自然・文化・歴史資源を伝える観光案内などの充実

地域特性を活かした住環境の形成

12-1

自然・文化・歴史資源を中心とした区民憩いの場づくり

12-2

緑地や広場などと調和した居住環境の形成

12-3

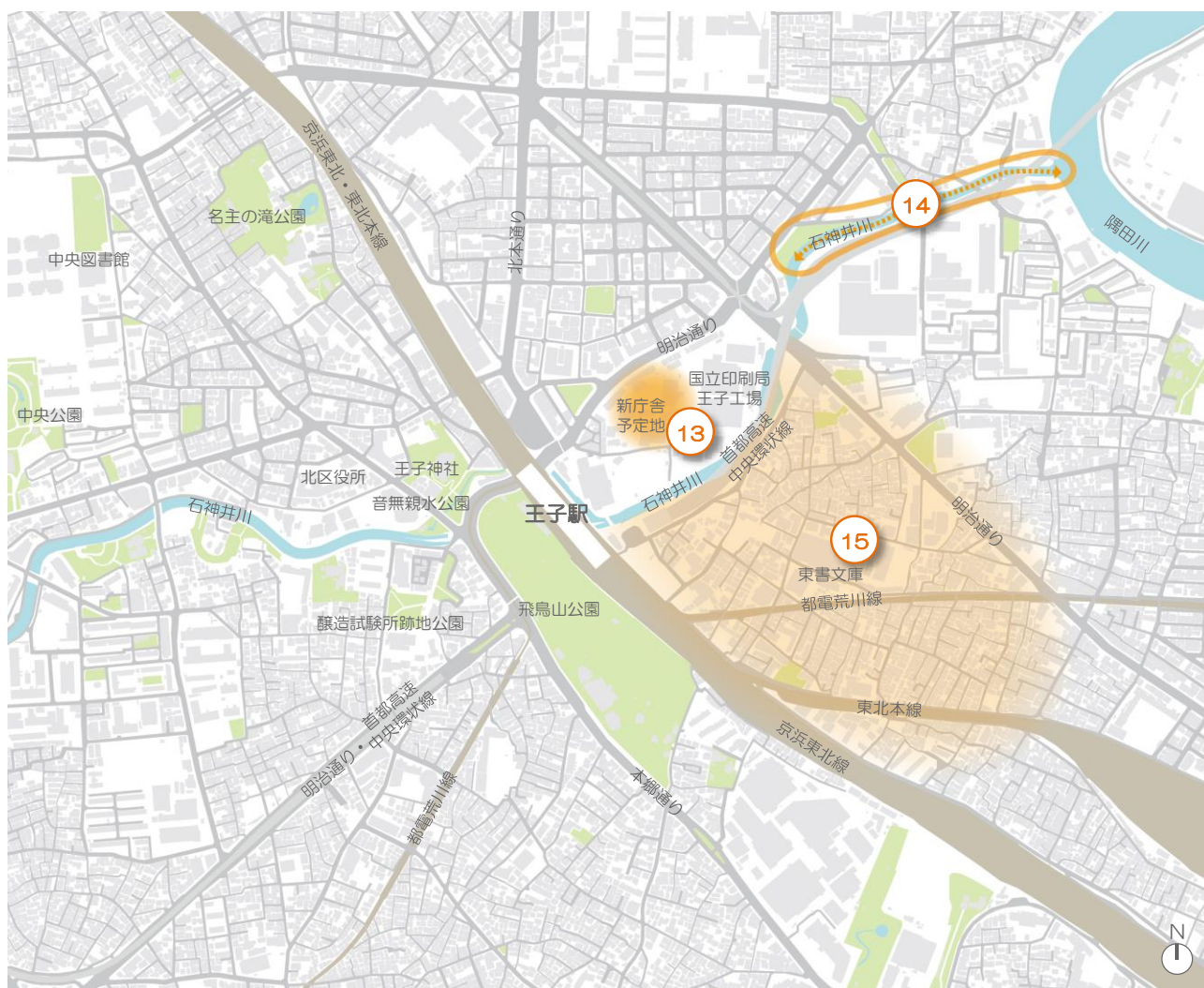
飛鳥山公園を中心とした公園ゾーンと調和したまちづくりの推進

12-4

団地の建替えを契機にした河川等の周辺環境と調和した住環境向上

(4) 防災性の向上

木造住宅密集地域の災害対応力の向上や水害対策など、既存のまちの課題を解決し、環境改善に努めるとともに、新庁舎整備や駅前再整備などの大規模開発にあわせてまち全体の防災性の向上を図ります。また、石神井川での舟運の活用など、王子ならではの施策についても検討を進めます。



※エリア等については、場所を特定しているものではありません。

庁舎整備とあわせた防災拠点機能の構築

13 防災拠点機能強化の視点を踏まえた新庁舎整備

【参考事例】 防災拠点機能の備わった庁舎整備の例



としまエコムーゼタウン 豊島区役所（豊島区）



甲府市庁舎（甲府市）

河川の活用による災害対応力の強化

14 災害時の舟運による物資輸送ルートの整備

木造住宅密集地域における防災性及び災害対応力の強化

15 防災生活道路やポケットパーク等の整備 住民参加の防災まちづくりの推進

【参考事例】 北区における無電柱化やポケットパーク整備

【参考事例】 自主防災組織による活動



街路整備のイメージ
（西ヶ原地区）



広場整備のイメージ
（上十条三・四丁目地区）



スタンドパイプを使った放水訓練
（上十条五丁目町会）

水害対策の強化

16 大規模水害に備えたまちづくりの推進

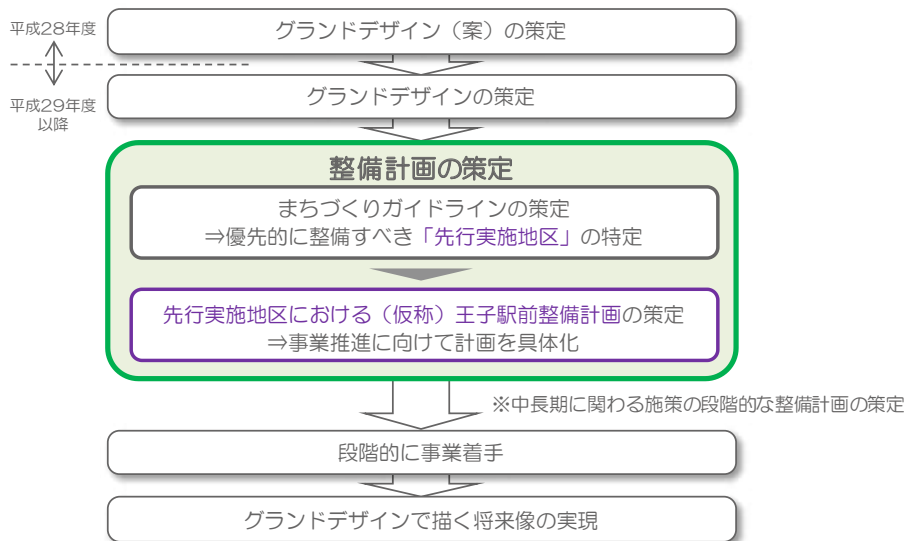
※地域全体に関わるものであるため、図示は無し

第4章 実現に向けて

グランドデザイン策定後の進め方

(1) 整備計画の策定

グランドデザインの実現に向けた整備計画策定の過程では、各施策相互の関係性や配慮事項を具体的に定めた「まちづくりガイドライン」を策定します。また、整備の効果が十分に発揮できるように、優先的に整備すべき「先行実施地区」の範囲を特定した上で事業化を検討します。その中で個別の都市計画や各種事業、具体的な施策などの検討に取り組みしていきます。中長期に関わる施策も、段階的に整備計画を策定していきます。



グランドデザイン策定後の進め方

(2) 施策案の段階的な事業化に向けた展開について

まず、新庁舎の整備を含む駅前地区を中心とした「先行実施地区」から事業着手を図ります。これを契機としながら、検討の深度や多様な関係者の機運、社会経済状況なども踏まえ、中期に対応すべき内容・長期に対応すべき内容などの整理を図りながら、段階的に事業実施を推進することにより、まちづくりの効果をより高いものとしていきます。



※具体的な範囲については今後検討します。

段階的な事業化に向けた展開のイメージ

